

原著：秋田大学医学部保健学科紀要12(1)：27-36, 2004

## 基礎看護技術「罨法」に関する学生のレディネス —罨法に関連した知識および経験の状況を中心に—

工 藤 由紀子      佐々木 真紀子      長谷部 真木子  
石 井 範 子

### 要 旨

基礎看護技術「罨法」に関する用語の知識、および経験状況を把握するために学生のレディネスを確認する調査を行った。本研究の対象は、本短期大学部2年生79名である。質問項目には罨法の講義を理解するのに必要な用語、計47語を設定した。

調査用紙は63名から回収された(回収率79.7%)。その内容を集計した結果、「意味まで知っている」の人数の割合が高かった用語は、『湯たんぽ』『腋窩動脈』などの物品名や解剖生理学的な用語であった。「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」の人数の割合が高かった項目は、『知覚麻痺』『熱伝導率』などであった。「知らない、聞いたことがない」の人数の割合が高かった項目は、『罨法』『貼用』などのいわゆる看護の専門用語に関するものであった。また、学生の経験率が高かった項目は『発熱』『冷湿布』であり、低かった項目は『血栓』『巴布(poultice)』であった。

学生のレディネスを把握することで、学生の「罨法」に関する用語の認識度や経験の有無を教員が把握でき、学生の間違った知識を訂正するために授業案を修正することができると考えられた。また今後は、理解の不足している項目の指導について、罨法と他の講義とどのように連動させていくかが課題であることが示唆された。

### はじめに

近年、医療の高度化、患者の高齢化・重症化、平均在院日数の短縮等により、看護業務が多様化・複雑化する一方、学生が行う看護技術実習の範囲や機会が限定されてきていると言われている<sup>1)</sup>。そのため、授業内容や授業方法を精選し、学生の学習効果が期待されるような授業計画をすすめる必要がある。そのなかで、「罨法」は看護師の観察と判断によって施行されることも多く、かつ、対象者の安楽を目的として頻繁に用いられる看護技術であるといえる。したがって我われは、学生が安全・安楽に罨法を実施するために温熱・寒冷刺激が心身へ及ぼす影響を理解し、罨法施行時の観察や評価を的確に行うことができるように教育する

必要があると考える。また、罨法は日常生活においても多く見られる手技であり、近年では簡単に使用できる罨法製品が多く市販されるようになった。医療の場面においても、ゴム製の氷枕に変わり市販のアイスノンが用いられることがあり、また事故防止の観点から、温罨法の際に湯たんぽを用いず電気毛布の使用を勧められている施設もあるといわれている。また、「最近の学生は家事体験が少なく生活行動能力の低下がみられる<sup>2)</sup>」とも指摘されているように、医療に関わらず家庭や学生を取り巻く環境も多様化しているといえる。そのため、「罨法」に関する学生のレディネスは、これまで我われが考えてきたものと若干異なる背景があるものと推察される。それゆえ、現在の学生のレディネスに対応できるような授業方法の検討が求められる

秋田大学医学部保健学科看護学専攻

Key Words: 看護教育  
罨法  
学生  
レディネス

と考える。

レディネスとは、成熟準備性<sup>3)</sup> または準備性<sup>4)</sup> のことであると言われている。教員が学生のレディネスを考慮した授業を展開することで、学生の既存知識のうえにさらに新たな知識を積み上げるような学習効果を及ぼすことができると考えられる。看護学教育において看護学生のレディネスに着目している先行研究にはさまざまあるが、この中で、特に学内で行われる講義や演習に着目してみると、高橋ら<sup>5)</sup> は、経口与薬に関する学生のレディネスを調査した結果、学生の知識度は高いがその知識が行動として表れていなかったと報告している。また児玉ら<sup>6)</sup> は、在宅酸素療法の授業前にレディネスを把握するテストを実施したことで、学生に興味関心を持たせることができる結果となったと報告している。西田ら<sup>7)</sup> は、ベッドメイキングの成績と家事の実施頻度の関係を検討した。その結果、家事の実施頻度が高い学生はベッドメイキングにかかる時間がやや短くなる傾向があったと報告している。前川ら<sup>7)</sup> は独自の教授-学習過程を設計・実施し、レディネスに適応した学習方略は学生の学習プロセスや個人差を保証することを明らかにした。以上のことから、教員は学生のレディネスを把握することで、より効果的な授業方略を見出ししていくことができると考えられる。しかし、単元ごとに細やかに学生のレディネスを把握して授業を検討した研究報告は少ない。そのため、各単元において学生のレディネスを把握するとともに授業方法を検討する必要がある、さらなる授業研究の積み重ねが必要であると考えられる。

そこで今回、「罨法」に関する学生のレディネスとして、「罨法」で必要とされる用語に関する知識や経験の有無を調査し、その上で罨法の授業を検討した。

## 研究目的

「罨法」で必要とする用語の学生の知識および経験状況の実態を明らかにし、授業方法を検討する。

## 対象と方法

### 1.対象

本研究の対象は、平成14年度に入学した秋田大学医療技術短期大学部看護学科（以下、本学とする）学生79名である。

### 2.方法

#### 1) 本学の基礎看護技術における「罨法」の位置づけと授業実施時期

罨法は、基礎看護技術の中で診療に関する看護技術の中に分類されており、本学では診療に関連する技術の中の「バイタルサインズの測定：体温」に関連した項目として位置づけられている。授業の実施時期は平成14年10月末から11月上旬であり、講義と学内実習を4時間ずつ設定した<sup>8)</sup>。なお、「罨法」の単元における教育目的および教育目標は以下の通りである。

#### (1)教育目的

安全・安楽に罨法を実施できる。

#### (2)教育目標

①罨法が人の心身両面にどのような影響を与えるのかを理解できる。

②罨法の目的・効果・種類・援助方法・貼用時の留意点が理解できる。

③安全・安楽に湯たんぽ・氷枕・氷嚢・氷頸を実施できる。

基礎看護技術以外の科目では、解剖学、生理学、生

表1 罨法で必要とされる用語として抽出した項目

N0	項目	12	知覚神経	24	リンパ液	36	鎮痛
1	罨法	13	腸管の蠕動運動	25	知覚麻痺	37	うっ滞
2	湯たんぽ	14	交感神経	26	意識障害	38	血栓
3	氷枕	15	副交感神経	27	痛覚	39	悪寒戦慄
4	氷嚢	16	疼痛	28	温覚	40	発熱
5	氷頸	17	蛋白変性	29	冷覚	41	熱伝導率
6	アイスノン	18	炎症	30	立毛	42	空気の膨張
7	電気毛布	19	出血	31	腋窩動脈	43	空気の縮小
8	貼用	20	熱傷	32	大腿動脈	44	ホットバック
9	新陳代謝	21	凍傷	33	頸動脈	45	巴布（バップ）
10	血管運動神経	22	脱水	34	化膿	46	温湿布
11	浸出液	23	血液	35	解熱	47	冷湿布

○は、体験の有無をたずねた項目

表2 「罨法」における用語の学生の認識度 (%) (n=63)

番号	項目	意味まで知っている	意味は知らないが言葉は聞いたことがある	知らない、聞いたことがない
1	罨法	6.8	33.9	59.3
2	湯たんぼ	98.3	1.7	0.0
3	氷枕	78.0	6.8	15.3
4	氷嚢	57.6	20.3	22.0
5	氷頸	13.6	16.9	69.5
6	アイスノン	89.8	10.2	0.0
7	電気毛布	94.9	3.4	1.7
8	貼用	10.2	13.6	76.3
9	新陳代謝	72.9	27.1	0.0
10	血管運動神経	8.5	42.4	49.2
11	浸出液	23.7	37.3	39.0
12	知覚神経	83.1	16.9	0.0
13	腸管の蠕動運動	79.7	16.9	3.4
14	交感神経	89.8	10.2	0.0
15	副交感神経	89.8	10.2	0.0
16	疼痛	47.5	45.8	6.8
17	蛋白変性	47.5	28.8	23.7
18	炎症	69.5	30.5	0.0
19	出血	98.3	1.7	0.0
20	熱傷	74.6	16.9	8.5
21	凍傷	88.1	11.9	0.0
22	脱水	88.1	10.2	1.7
23	血液	98.3	1.7	0.0
24	リンパ液	88.1	11.9	0.0
25	知覚麻痺	49.2	40.7	10.2
26	意識障害	76.3	22.0	1.7
27	痛覚	81.4	15.3	3.4
28	温覚	83.1	15.3	1.7
29	冷覚	83.1	16.9	0.0
30	立毛	89.8	10.2	0.0
31	腋窩動脈	96.6	3.4	0.0
32	大腿動脈	96.6	3.4	0.0
33	頸動脈	94.9	5.1	0.0
34	化膿	88.1	10.2	1.7
35	解熱	94.9	5.1	0.0
36	鎮痛	66.1	32.2	1.7
37	うっ滞	13.6	50.8	35.6
38	血栓	37.3	50.8	11.9
39	悪寒戦慄	27.1	35.6	37.3
40	発熱	98.3	1.7	0.0
41	熱伝導率	20.3	47.5	32.2
42	空気の膨張	37.3	45.8	16.9
43	空気の縮小	39.0	39.0	22.0
44	ホットバック	5.1	16.9	78.0
45	巴布(バップ)	6.8	15.3	78.0
46	温湿布	84.7	15.3	0.0
47	冷湿布	88.1	11.9	0.0

人数 (%)

「意味まで知っている」「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」「知らない、聞いたことがない」において学生の人数が多かった項目

化学、栄養学、薬理学、病理学、微生物学、遺伝学、疫学・保健統計学、看護活動論、看護学概論、臨床看護総論などの専門教育科目を履修中である<sup>8)</sup>。

## 2) 調査の内容と実施

基礎看護技術のテキストとして市販されている日本の成書<sup>9-12)</sup>の記載部分から、罨法の講義を理解するために必要な解剖、生理学的な項目、および罨法の使用物品に関する用語などについて抽出し、研究者間で検討して47語を設定した(表1)。各項目について、「意味まで知っている」「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」「知らない、聞いたことがない」の3段階で設問を設けた(資料)。さらに、体験することができる項目に関しては、体験したことがあるものを「○」、体験したことがないものを「×」とする欄を設けた。調査用紙を罨法の授業開始一週間前に配布し、回収箱を設置して4日間の期限を設けて留め置き法にて回収した。

## 3) 分析方法

設定した47語の回答について設問ごとの人数と割合を算出した。また、体験できる項目に関しては、体験の有無について人数と割合を算出した。

## 3.倫理的配慮

学生には、調査内容を研究に用いること、提出の有無が成績に影響しないこと、データは匿名で扱うことを確約した。回収には4日間の期限を設け、本調査に同意した学生のみが調査用紙を提出できる留め置き法を用い、倫理的配慮に努めた。

## 結 果

調査用紙は79名に配布し、63名から回収され回収率は79.7%であった。そのうち、有効回答者は59名であり、有効回答率は93.7%であった。

### 1.罨法に関する用語の認識度(図1-a, 図1-b)

設定した47語のうち、「意味まで知っている」と回答した人数が多かった項目は、罨法の物品に関する用語では『2.湯たんぼ』が58人(98.3%)、『7.電気毛布』が56人(94.9%)の2つであった。また、解剖生理学的な項目では、『19.出血』が58人(98.3%)、『23.血液』が58人(98.3%)、『31.腋窩動脈』が57人(96.6%)、『32.大腿動脈』が57人(96.6%)、『33.頸動脈』が56人(94.9%)、『35.解熱』が56人(94.9%)、『40.発熱』が58人(98.3%)の7つであった。

「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」と回答した人数が多かった項目は、『37.うっ滞』が30人(50.8%)、『38.血栓』が30人(50.8%)、『41.熱伝導率』

(30)

工藤由紀子／基礎看護技術「褥法」に関する学生のレディネス

図1-a 「褥法」で必要とされる用語の学生の認識度

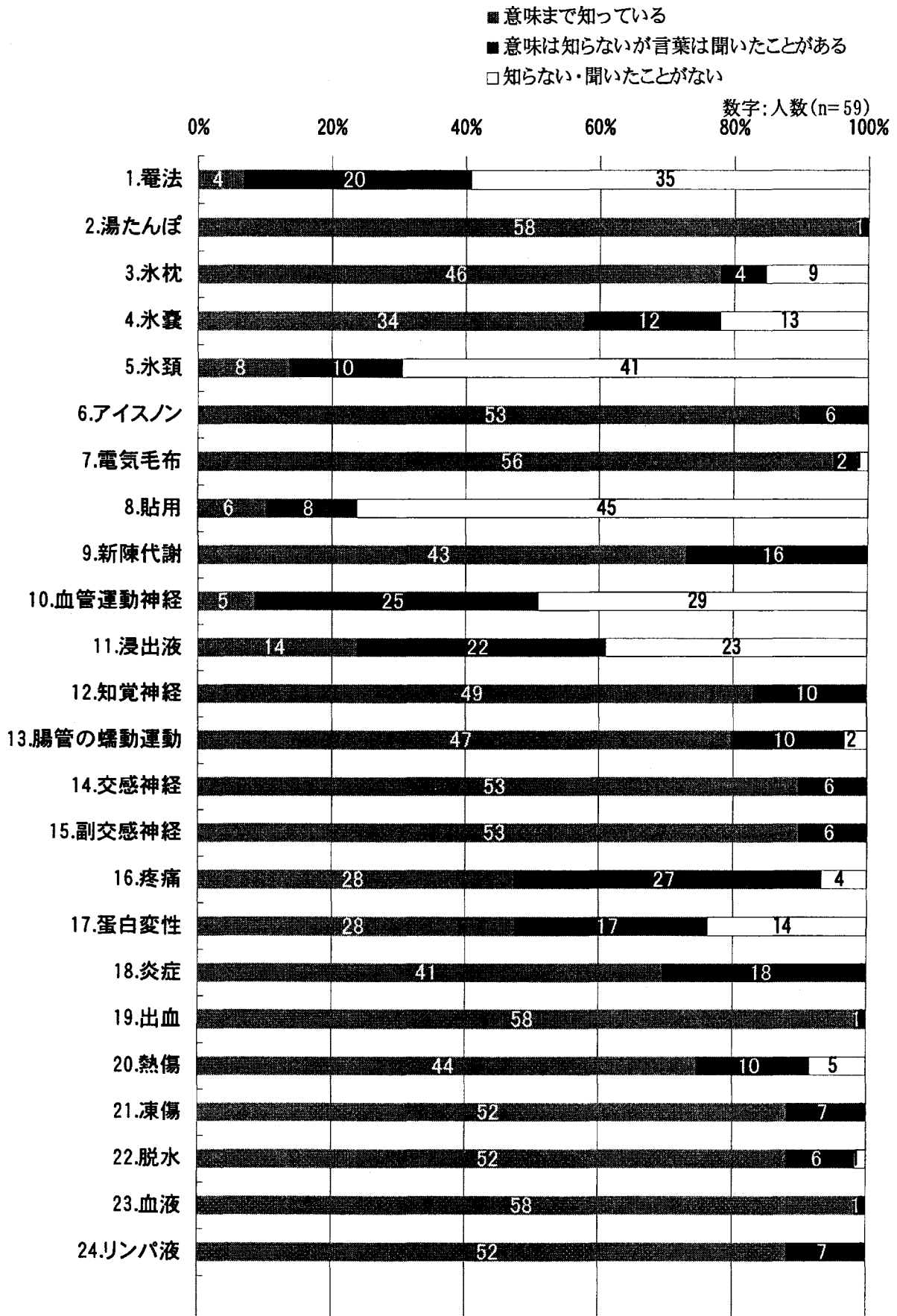


図1-b 「巻法」で必要とされる用語の学生の認識度

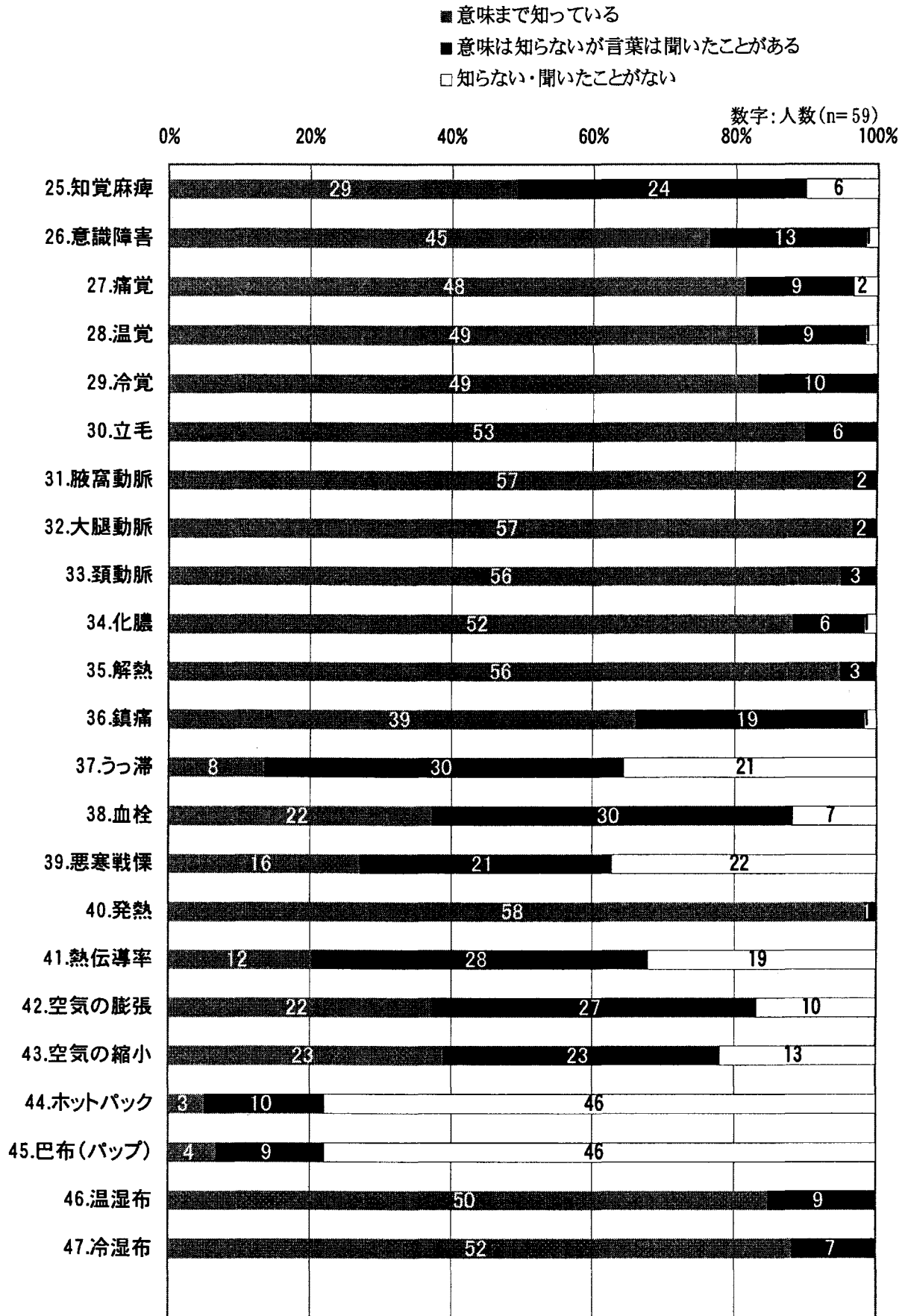
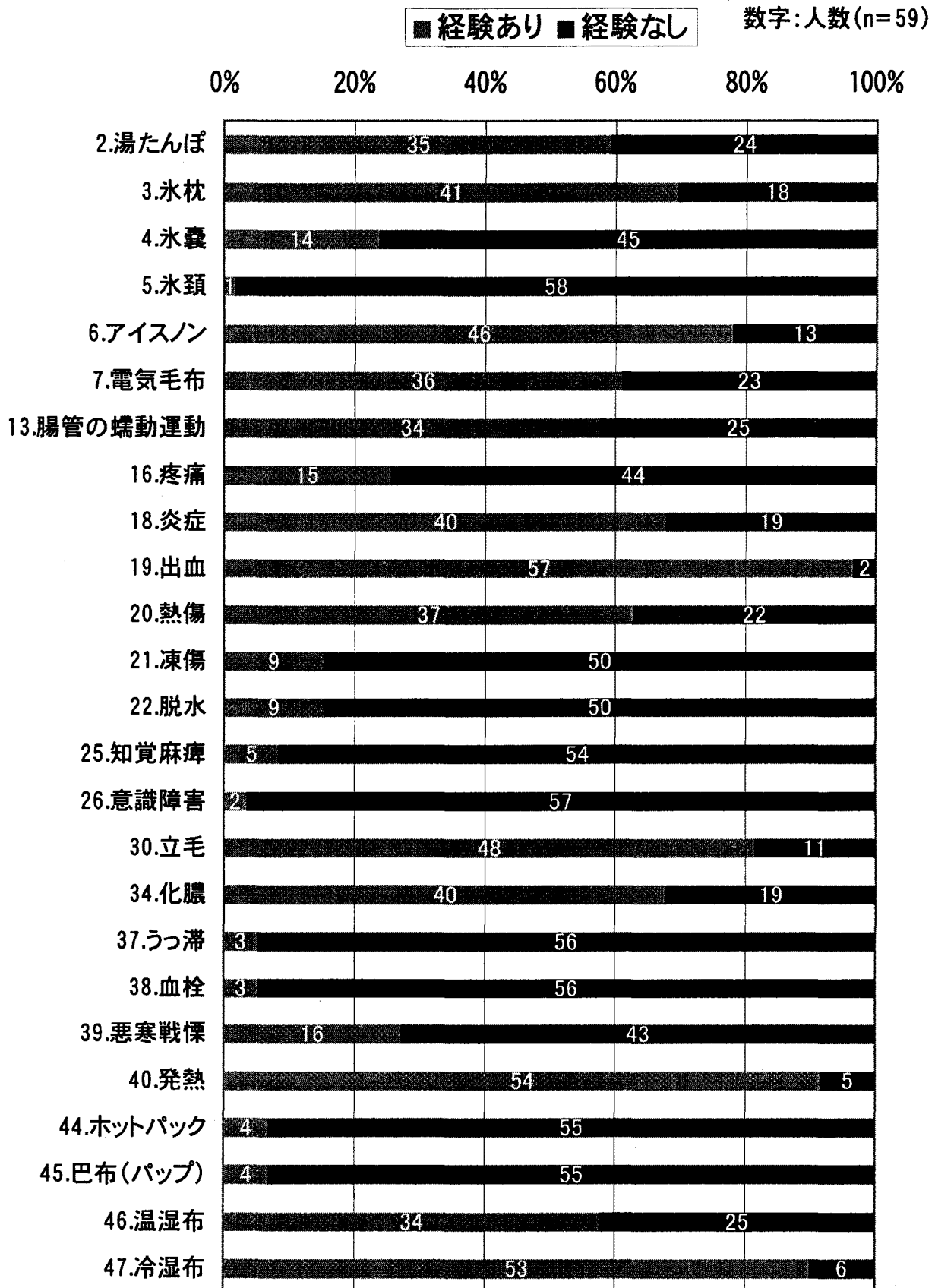


図2 学生の経験の有無



が28人(47.5%)、『16.疼痛』が27人(45.8%)、『42. 空気の膨張』が27人(45.8%)、『10.血管運動神経』が25人(42.4%)、『25.知覚麻痺』が24人(40.7%)の7つであった。

「知らない、聞いたことがない」と回答した人数が多かったのは、『44.ホットパック』が46人(78.0%)、『45.巴布』が46人(78.0%)、『8.貼用』が45人(76.3%)、『5.氷頸』が41人(69.5%)、『1.罨法』が35人(59.3%)の5つであった。

## 2.罨法に関する経験の状況

設定した47語のうち、学生のこれまでの生活における経験の有無を25語について尋ねた(図2)。

経験した学生の人数が多かった項目は、『19.出血』が57人(96.6%)、『40.発熱』が54人(91.5%)、『47.冷湿布』が53人(89.8%)、『30.立毛』が48人(81.4%)の4つであった。

経験した学生の人数が少なかった項目は、『5.氷頸』が1人(1.7%)、『37.うっ滞』が3人(5.1%)、『38.血栓』が3人(5.1%)、『44.ホットパック』が4人(6.8%)、『45.巴布』が4人(6.8%)の5つであった。

また、授業等では未修得であるが経験している人数が多かった項目としては、『47.冷湿布』が53人(89.8%)、『6.アイスノン』が46人(78.0%)、『3.氷枕』が41人(69.5%)、『7.電気毛布』が36人(61.0%)、『2.湯たんぼ』が35人(59.3%)、『46.温湿布』が34人(57.6%)の6つであった。

## 考 察

今回、学生の基礎看護技術「罨法」に関する用語の知識、および経験状況を把握して授業方法を検討するため、レディネスを確認する調査を行った。

その結果、使用物品に関する項目では『湯たんぼ』『電気毛布』などの認識度が高く、解剖生理に関する項目では、『出血』『腋窩動脈』『発熱』などの認識度が高かった。また、経験した学生の割合が高かった項目は『出血』『発熱』などであり、授業等では未習得だが半数以上の学生が経験している項目としては、『湯たんぼ』『アイスノン』『電気毛布』などがあげられた。これらは、学生が自分自身の日常生活の中で、または罨法以前の授業の中において知ることができる項目である。高橋<sup>9)</sup>が、経口与薬に関する学生のレディネス調査の中で、「認知領域における学生の知識レベルは高い」と報告しているのと同様、本学の学生においても、罨法の授業に必要とされる用語として設定した大部分が、授業や日常生活の中で見聞きしたり経験したことがあるものであることが明らかとなった。ま

た、調査の結果を通して、学生が何を知らず何を知っているかをより明確にすることができ、また限られた時間の中で授業内容の精選をしていく基準として授業案に反映することができると考えられる。

一方、「知らない、聞いたことがない」の人数の割合が高かった項目は、『罨法』『氷頸』『貼用』『ホットパック』『巴布』の5つであった。これらの用語は、罨法の授業の中で初めて出現する、いわば看護の専門用語である。学生は、今回の授業で初めて用語そのものを知った者もいれば、読み方さえ分からなかった学生も多かったと考えられる。これら認知度の低い用語に関して、教員は学生が一度習得した知識を忘れ去ることがないように教育する必要がある。柊中ら<sup>13)</sup>は学生が日常使用しているものと学習経験の有無との関連を検討したなかで、「日常生活の中で使う利点が多く、目的意識を持ちやすい内容のものは、学生が利用しやすい」と考察している。また、「学習すべき項目の数は多くても、それらが相互に密接に関連し合っていればそれほど困難なく学習できるし、また後の想起も容易になる<sup>14)</sup>」とも言われている。このことから、認知度の低い用語を教授する際には、学生の日常生活において実施している罨法と関連付けて指導することで、より効果的な学習となるようにしていかなければならないと考える。

また、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」の人数の割合が高かった項目には『血管運動神経』『疼痛』『知覚麻痺』などの生理機能に関する用語が多く含まれていた。これらの用語は、罨法が身体に及ぼす生理的な影響や効果をアセスメントするために重要な項目である。本單元における教育目的は、安全・安楽に罨法を実施することができることである。目的を達成するためには、これらの項目に関する学生の理解を深める必要があり、その意味を知らないままにはしておけない問題であると考えられる。そのため、これらの項目をいつどこで学ぶか、罨法の授業内容と関連する専門科目をどのように連動させていくかが今後の課題であると考えられる。

また今回、学生が本来の意味を取り違えて理解していると察せられる用語があった。例えば、冷湿布とは本来、布を冷水に浸し絞ったものを貼用することを指しているが、学生の考えている冷湿布とは、病院等で処方される消炎・鎮痛巴布剤や、「サロンパス®」「のびのびサロンシップ®」などというようなテレビ等によく見かけ、かつ家庭でも使用する機会の多い製品を指しているのである。したがって、学生の『温湿布』『冷湿布』の認識度が84.7%、88.1%と高かったのは、実際は誤って認識されている結果であることが推察さ

れた。このことから、罨法の用語に関する学生の誤った認識を授業の中で確認し、さらに訂正を加えるといったような授業案の修正が必要であると考えられる。

児玉<sup>9)</sup>は、「学生のレディネスをとらえ、それを授業展開に生かすことの意義は、学生の知識・ニーズを知ることにより学生の興味・関心をひきつけ、さらには、個人の主体的学習へと発展させていくことである」と述べている。今回の調査によって、我われは罨法に関する学生の認識にあわせて授業内容を洗練させ、授業案の修正をすることができた。しかし、レディネスの調査が学生の興味・関心や学習意欲に役立ったのかどうかという点については、この調査だけでは評価できない。したがって、授業終了後に授業評価を行い、レディネス調査の実施が学生にどのような影響を与えたのかを明らかにしていく必要があると考える。

## 結 論

学生の基礎看護技術「罨法」に関する用語の知識、および経験状況を把握するためにレディネスを確認する調査を行った結果、以下の結論を得た。

1. 「意味まで知っている」の人数が多かった項目は、『湯たんぽ』『電気毛布』の罨法の物品に関する2つと、『出血』『血液』『腋窩動脈』『大腿動脈』『頸動脈』『解熱』『発熱』の解剖生理学的な項目7つであった。
2. 「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」の人数が多かった項目は、『血管運動神経』『疼痛』『知覚麻痺』『うっ滞』『血栓』『熱伝導率』『空気の膨張』の7つであった。
3. 「知らない、聞いたことがない」の人数が多かった項目は、『罨法』『氷頸』『貼用』『ホットパック』『巴布』の5つであり、いわゆる看護の専門用語であった。
4. 「罨法」に関する項目で経験した学生の人数が多かった項目は、『出血』『立毛』『発熱』『冷湿布』であり、経験した人数が少なかった項目は『氷頸』『うっ滞』『血栓』『ホットパック』『巴布』であった。
5. 授業等では未習得であるが経験していると答えた人数が多かった項目は、『湯たんぽ』『氷枕』『アイスノン』『電気毛布』『温湿布』『冷湿布』であった。
6. 学生のレディネスを把握したことで、学生の「罨法」に関する用語の認識度や経験の有無を教員が把握でき、学生の間違った知識を訂正するために授業案を修正することができたと考えられた。また今後は、理解の不足している項目の指導について、罨法と他の講義とどのように連動させていくかが課題であることが

示唆された。

## おわりに

今回は、「罨法」で必要とする用語の学生の知識および経験状況の実態を明らかにし、授業方法を検討した。今後は、学生が行った授業評価を通して、レディネスの調査の実施が学生の授業に対する関心・理解などにどのような影響を与えたのかを明らかにし、より効果的な授業を提供するための示唆を得たい。

## 文 献

- 1) 文部科学省医政局看護課：看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書。平成15年3月17日、1-8。
- 2) 西田直子、上野範子ほか：基礎看護技術の演習指導を考える。学生のレディネスとベッドメイキングの評価から。京都府立医科大学医療技術短期大学部紀要5(1)、7-14、1995
- 3) 関嶋一、松浦宏ほか：教育心理学の理論と実践。日本文化科学社、東京、2000、pp9-24
- 4) 杉森みどり：看護教育学第3版、179-181、医学書院、2002
- 5) 高橋永子、渋谷美智子ほか：看護学生の経口与薬看護技術のレディネス。国立高知病院医学雑誌1、97-108、1992
- 6) 児玉由美子、小田正枝：レディネステストを実施しての授業展開の試み。看護展望16(11)、1266-1270、1991
- 7) 前川幸子ほか：レディネスに適応した教授方略の検討。日本看護学教育学会誌5(2)、122-123、1995
- 8) 平成14年度 秋田大学医療技術短期大学部看護学科講義要覧。35-37、2002
- 9) 薄井坦子他：系統看護学講座基礎看護学[2]基礎看護技術。医学書院、東京、1997、pp234-237
- 10) 坪井良子他：考える基礎看護技術。廣川書店、東京、1997、pp319-331
- 11) 氏家幸子他：基礎看護技術①②第5版。医学書院、東京、2000、pp149-170
- 12) 内藤寿喜子他：新版看護学全書13 基礎看護学② 基礎看護技術。メジカルフレンド社、東京、2001、pp171-177
- 13) 柗中智恵子、永田まなみ：学習レディネスの調査結果を踏まえた効果的な情報教育の検討。熊本大学医療技術短期大学部紀要12、27-35、2002
- 14) 前掲書1) pp64-72



資料 調査に用いた質問紙

以下に列挙したものの内、①～③のあてはまるものに○を付けてください。

	意味まで 知っている	意味は知ら ないが、言葉は 聞いた事がある	知らない 聞いた事 がない	体験した事 があるか(○か× を記入)
例) 鳥	① <input checked="" type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
ここから始めてください。				
1) 電法	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
2) 湯たんぽ	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
3) 氷枕 (ひょうちん)	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
4) 氷嚢 (ひょうのう)	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
5) 氷頸 (ひょうけい)	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
6) アイスノン	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
7) 電気毛布	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
8) 貼用 (ちょうよう)	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
9) 新陳代謝	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
10) 血管運動神経	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
11) 浸出液	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
12) 知覚神経	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
13) 腸管の蠕動運動	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
14) 交感神経	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
15) 副交感神経	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
16) 疼痛	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
17) 蛋白変性	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
18) 炎症	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
19) 出血	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )

(裏面にもあります)

	意味まで 知っている	意味は知ら ないが、言葉は 聞いた事がある	知らない 聞いた事 がない	体験した事 があるか(○か× を記入)
20) 熱傷	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
21) 凍傷	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
22) 脱水	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
23) 血液	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
24) リンパ液	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
25) 知覚麻痺	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
26) 意識障害	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
27) 痛覚	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
28) 温覚	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
29) 冷覚	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
30) 立毛	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
31) 腋窩動脈	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
32) 大腿動脈	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
33) 頸動脈	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
34) 化膿	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
35) 解熱	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
36) 鎮静	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
37) うっ滞	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
38) 血栓	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
39) 悪寒戦慄	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
40) 発熱	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
41) 熱伝導率	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
42) 空気の膨張	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
43) 空気の縮小	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	
44) ホットバック	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
45) 巴布 (パップ)	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
46) 温湿布	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )
47) 冷湿布	① <input type="radio"/>	② <input type="radio"/>	③ <input type="radio"/>	( )

—ご協力ありがとうございました—

## A Study of Nursing Students' Readiness regarding the Compress — Students' Knowledge and Experience relating to Compress —

Yukiko KUDOH Makiko SASAKI Makiko HASEBE  
Noriko ISHII

Course of Nursing, School of Health Sciences, Akita University

We carried out a study to investigate the readiness of students through assessing their knowledge of compress vocabulary and level of experience. The subjects were 79 students from this college. They were assessed on a total of 47 words necessary to understand lectures on the compress.

Questionnaires were collected from 63 students (return rate 79.7%). The items which scored highest on "Meaning understood" were name of compress goods or anatomical vocabulary such as *bedpan* and *axillary artery*. Items such as *anesthesia* and *thermal conductivity*, scored highly on "Meaning not understood but have heard the word". Items which scored highly on "not heard and not understood" were the so-called specialist nursing terms such as *compress* and *chou-you* (application of compress). The students had a high level of experience of *pyrexia*, *cold compress*, and a low level of experience of *thrombus* and *poultice*.

As a summary, this investigation was effective in adjustment of teaching plan. And, it is suggested how lecturing of compress and item with an insufficient understanding are cooperated.